

環境配慮取組計画書

E S S 福山太陽光発電所(仮称)建設に伴う「環境配慮取組計画」を下記の通り作成しました。

記

1. 環境配慮に関する検討内容等

	環境影響等	検討項目選定 (○) 非選定 (×) 及びその理由	環境配慮の取組内容	左記措置等 実施時期
立地環境に係る検討	重要な動植物の生息・生育地など自然環境の改変	○ 計画地は埋立造成後、管理された草地となっていたため、草地や小規模な湿地を生息・生育環境とする重要な動植物が生息する可能性がある。	・ミゾコウジュは建設予定地周辺緑辺部へ種子散布 ・コオイムシ及び餌生物は現在と同一場所で生息環境を確保(建設計画一部修正) ・カヤネズミの建設予定地外への誘導	工事前 工事中
	重要な地形・地質又は土壌の改変	× 計画地は埋立造成された土地であり、計画地には重要な地形・地質もなく、また、土壌の改変も行わない。	—	—
	土壌汚染・底質汚染箇所の改変	× 建設予定地は石炭灰の埋立地であり、掘削等を行う場合には土壌汚染を生ずる可能性もあるが、盛土以外の土工事は計画しておらず、土壌汚染箇所を改変する可能性はない。	〔荷重は 20kN/m ² 以下に抑える予定〕	—
	人と自然との触れ合い活動の場の改変	× 計画地は工業団地内に位置しており、周辺には人と自然との触れ合い活動の場が存在しない。	—	—
	その他 ()	—	—	—
施設の存在及び供用に係る検討	大気汚染物質の排出	× 本事業は太陽光発電事業であり、施設供用後に大気汚染物質を排出することはない。	—	—
	騒音・超低周波音の発生	× 施設供用後には変圧器等の稼働によって騒音が発生するが、建設予定地は工業団地内に位置し、最も近い民家で約 1.6km 離れており、近隣に病院・民家等の配慮すべき保全対象が存在しない。	〔低騒音型変圧器使用の予定〕	—
	振動の発生	× 施設供用後に振動を発生する設備は設置しない。	—	—
	悪臭の発生	× 施設供用後に悪臭の原因となるような物質は使用しない。	—	—
	水質汚濁の発生	× 施設供用後、定常状態で水を使用する予定はない。ごく稀に、ソーラーパネルを洗浄する可能性もあるが、洗浄には加圧タイプの噴霧器(洗浄液は雨水を貯留して利用の予定)を使用するため、使用水量もわずかであり、透水性の防草シートを透過して地下に浸透するため、周辺に影響を及ぼす恐れはない。	—	—

	環境影響等	検討項目選定 (○) 非選定 (×) 及びその理由	環境配慮の取組内容	左記措置等実施時期
施設の存在及び供用に係る検討	地下水位の低下・地盤沈下の発生	× 本事業において地下水の利用はなく、地下水位の低下・地盤沈下の発生の恐れはない。	—	—
	重要な動植物の生息・生育地など自然環境への影響	○ 計画地は埋立後、管理された草地となっていることから、草地や小規模な湿地を生息・生育環境とする重要な動植物が生息する可能性がある。また、施設供用後は、防草シートを敷設するため、工事後の植生の回復は期待できない。	・ミゾコウジュは建設予定地周辺緑辺部へ種子散布 ・コオイムシ及び餌生物は現在と同一場所で生息環境を確保(建設計画一部修正) ・カヤネズミの建設予定地外への誘導	工事前 工事中
	地域景観への影響	× 景観構成要素の変化、太陽光の反射光等によって周囲の景観に影響を与える恐れがあるが、計画地は工業団地内に位置しており、周辺の工場建屋等によって遮られるため、地域景観への影響の恐れはない。	—	—
	人と自然との触れ合い活動の場への影響	× 計画地は工業団地内に位置しており、周辺には人と自然との触れ合い活動の場が存在しない。	—	—
	廃棄物の発生	× 本事業は太陽光発電事業であり、施設供用に伴う廃棄物の発生はない。	—	—
	温室効果ガス・オゾン層破壊物質の排出	× 本事業は太陽光発電事業であり、施設供用に伴う温室効果ガス・オゾン層破壊物質の排出はない。	—	—
	その他 ()	—	—	—
工事に係る検討	建設機械の稼働による影響	× 建設機械の稼働に際して大気汚染、騒音や振動等の発生を伴うが、建設機械の稼働は小規模であり、また、近隣に病院・民家等の配慮すべき保全対象が存在しない。	—	—
	工事用車両の走行による影響	○ 工事用車両の走行に際して、走行ルート周辺への大気汚染、騒音や振動等の影響が想定される。	・適切な点検整備を行うとともに、法定速度の遵守、空ぶかし・急発進の回避等を徹底 ・資材搬入時間帯を適切に配分した搬入計画の策定 ・低公害車・低排出ガス車等の導入	工事中
	工事排水や工事裸地からの降雨時濁水の発生	× 計画地は石炭灰の埋立地であり、切土・掘削等は実施しない計画であり、表土保全のため防草シートの敷設も予定していることから、周辺に影響を及ぼすような濁水の発生は想定されない。	—	—
	建設発生土や廃棄物の発生	× 造成済みの土地への施設設置であり、建設発生土は発生しない。 廃棄物については、資材梱包用のパネルなどの発生が想定されるが、発生量を極力削減し、また、分別を推進し、再資源化の向上を図ることから、地域に影響を及ぼす可能性はない。	—	—
	その他 ()	—	—	—

2. 関係者（地域住民等）との情報交流

情報交流の実施概要	
公表期間	平成 26 年 7 月 28 日（月） ～ 平成 26 年 8 月 28（木）
公表方法	以下の項目について、当事業の進捗に合わせ公表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・福山市環境啓発課（福山市リサイクルプラザ）において、環境配慮取組計画および環境影響調査結果の本体、あらまし、問い合わせ先を公表する。 ・環境配慮取組計画および環境影響調査結果を閲覧可能とし、同時に意見が寄せられるよう措置をする。
周知方法	以下の項目について、当事業の進捗に合わせた周知方法とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や地元自治会に対し、説明の場を設け、事業に関する要望等をヒアリングする。
関係者からの意見の概要	事業者としての見解
<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事に伴い発生する土の運搬についてどのように考えているか確認する。 ・地元の道は狭隘な箇所もあり通学路もあるので、工事車両は幹線道路を通ってもらいたい。 ・見学者に対して、隣接する太陽光発電所と今回建設される太陽光発電所を比較できるような設備を設置してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整地に伴う土の処理については建設予定地内で処理する予定であるため、建設に伴い土を搬出することは考えていない。 ※上記を説明して関係者からの理解を得ている。 ・工事車両の通行はご意見の通り地元配慮する。 ※上記を説明して関係者からの理解を得ている。 ・今回建設する太陽光発電所の仕組みが分かるような設備を設置する。

3. 指導・助言を得た専門技術者

氏名	山原 康嗣
資格	環境アセスメント士（生活環境部門）
類似業務の実績	川西地区平成 22 年度環境配慮実施設計業務（山口県）（平成 23 年 1 月 21 日～平成 23 年 9 月 30 日）
所属	中電技術コンサルタント株式会社 共通技術本部 環境部
関与の概要等	太陽光発電事業における環境への影響調査、現地踏査等に係る業務を当社から中電技術コンサルタント株式会社へ委託した。

以上